

# 石見海域白濁調査 磯根資源影響調査（要旨）

勢村 均・由木雄一・石田健次・服部守男

昭和58年7月の山陰災害による磯根漁業資源への影響についてその実態を把握するため、石見西部（浜田～益田）の浅海域において調査を行った。

## 調 査 方 法

時期	昭和59年度	第1回（4月）	第2回（6～7月）
		第3回（8月）	第4回（11～12月）
	昭和60年度	第1回（4～6月）	第2回（7～8月）
		第3回（10～11月）	第4回（2～3月）
場所	調査区西部	飯浦、他に小浜、大浜、土田	計4ヶ所
	調査区中部	岡見、他に古湊	計2ヶ所
	調査区東部	津摩、他に福浦	計2ヶ所

合計8ヶ所、水深10m以浅の海域

項目 各定点毎に2地点を選定し、スキューバー潜水により次の項目について観測を行った。

- 1) 透明度（有視界の距離を測定）
- 2) 泥、その他の堆積物の有無
- 3) 植生（海藻類の分布状況を把握するため坪刈りを行ない、種類別の湿重量を測定する）
- 4) アワビ、サザエ等有用貝類（分布状況を把握するため10分×2人の観察記録を行う）
- 5) 魚影（調査海域の周辺に分布する魚類の目視観察）

## 調 査 結 果

### 透 視 度

59年4月は各定点1～4mで全般的に低めであり、未だ濁りは残っていた。6～7月以降はまだやや低めではあるが次第によくなって来ている。しかし、60年8月飯浦で1～2mと同地点4月調査時よりも低い値となっていた。60年10月岡見も同様であった。

## 泥・その他の堆積物

59年4月調査区西海域及び東海域で土砂、または流木、古タイヤ等がみられた場所もあったが6～7月以降は堆積物は全く観察されない。しかし、60年8月飯浦で底に軟泥が数cm堆積し一部海藻への付着もみられる。これは60年の梅雨期に陸上より流入した軟泥かその後海上が静穏のためよそに逸散しなかったためと思われる。また、調査時、同地点では瀬波があって軟泥がまき上げられているため透視度の低下が生じているものと考えられる。60年10月以降は全く観察されない。

## 植 生

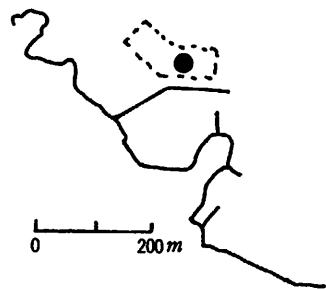
着生量については700～7200gr/m<sup>2</sup>の範囲であり全般的に県内の他海域と大差はない。有用藻類のワカメは59年4月調査地点と対象区（多伎）のものをそれぞれの試料について目視観察したところ各地点とも付着物は殆んどみられない。また、一昼夜乾燥されたものについても珪藻等付着物はみられなかった。

## アワビ・サザエ等の有用貝類

潜水観察の結果0～22個程度で県内の他海域の値と比べて大差はない。時期により多少の変動はみられる。津摩ではやや少ないがこれは従前の調査からこの海域での平均的な状態であると推定される。60年4月岡見の天然クロアワビの発見は出来なかったが、これは調査時この地点は背丈の高い（2～3m）モク類が繁りアワビの発見が困難であったためである。但し、トコブシは比較的浅所に生息しているため発見し易かった。調査結果の値と県内他海域で得られた値を比較すると大差はないが、60年4月飯浦、大浜ではサザエが比較的多かった（30個程）と言える。また、各定点とも斃死貝は観察されなかった。

## 魚 影

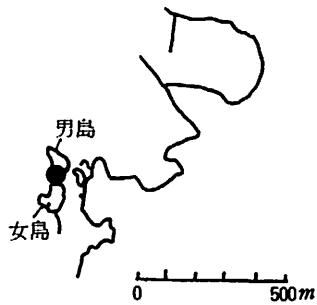
カサゴ、メバル、ベラ、カワハギ、ウミタナゴ、メジナ、スズメダイ等5～10種程各定点で観察され、時季や場所により多少の増減はみられるが、これらは県内の他の海域と変化のない状況であった。



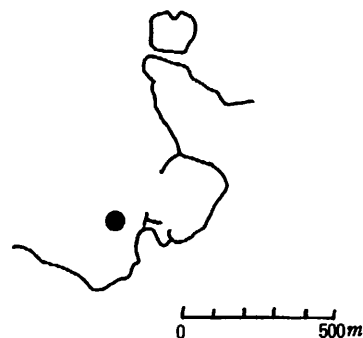
飯 浦



小 浜



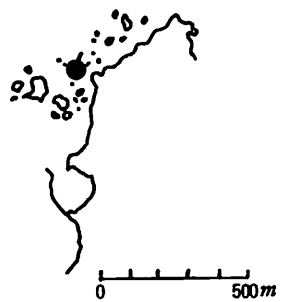
大 浜



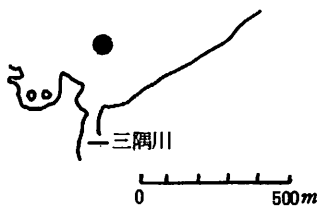
土 田



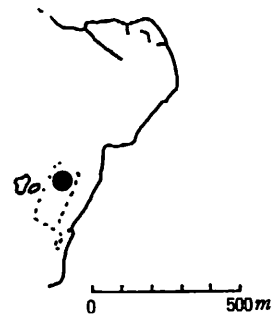
岡 見



古 湊



福 浦



津 摩